



オアシス

2022年4・5月

No. 94

発行：オアシス

編集委員会

連絡先：多田義幸

TEL

090-9121-0602

ロシアによるウクライナへの侵攻（侵略）がきわめて深刻な状況をもたらしています。多数の民間人が、砲撃、銃撃、拷問等により虐殺され、犠牲になっています。このような事態は断じて許されるものではありません。様々な違法性が明らかになっています。

ロシア側の侵攻の理由は？

ロシアは、今回の侵攻の理由として、「ロシアのみが独立国として承認した、ウクライナ東部のドンバス地方からの要請」によるとしています。つまり、友好国からの要請に基づき、集団的自衛権の行使を理由にしています。

違法性は？

第一に、武力の行使を禁止した国連憲章違反になります。国際的に国家として未承認のドンバス地方を国家として認めるということ、及び、国家でない一地域の要請に基づく侵攻を集団的自衛権の行使としている点も違法です。

第二に、原子力発電所の占領、病院、民間人への無差別爆撃は、ジュネーブ条約など国際人道法に反する戦争犯罪です。

第三に、核兵器先制使用の威嚇は国連憲章及び核兵器禁止条約に反する暴挙です。

国連は？

国連総会では、3月2日にロシアの軍事行動を「侵略」と断罪し、ロシア軍の即時無条件撤退を求め、1

41カ国の賛成で決議を採択しました。また3月24日には、ロシアの戦争犯罪を告発し、国際人道法の順守を求め、140カ国の賛成で採択しました。

ケニア大使のスピーチ

国連でケニアの大使は、ケニアの独立時に、長く戦争を続けないために、帝国主義国が引いた境界線で国境を定めることに合意し、アフリカ大陸の大きな統合を目指したことを演説しました。そのうえで、不条理は力によって解決するのではなく、帝国の燃え残りから復活を遂げようと訴えました。そのうえで、ウクライナのドンバス地方の独立反対、更にロシアのみならず、国際法を踏み破る大国の動向を強く非難し、「民族や人種、宗教の同質性による国家を追求していれば、何十年も血にまみれた戦争を続けることになっていただろう」「願望を力によって追い求めることをケニアは拒否する」と訴えました。

侵略に反対する声を上げよう

かつて、日本も今のロシアと同様に、中国などへの侵略を続け、その結果多数の人命が犠牲になりました。その反省により、憲法第九条の戦争の放棄の規定があります。ケニアの大使の国連演説、及び、我が国の憲法第九条にあるように、力による解決ではなく、平和的な解決を求めることが重要です。日本の世論として、ロシアによるウクライナへの侵略に反対する声をあげていきましょう。